

[illegible]

■学習指導要領と教育課程

野津原小学校のオープンスクールでは、授業と中休みの子どもたちの様子をご覧いただきました。如何でしたか。今後の学校経営のため、参観いただいて感じた良い点と課題を学校にフィードバックいただけると助かります。

日々の授業は、野津原小学校が作成した教育課程に基づいて行います。教育課程とは、子どもたちが学ぶ学習内容と年間の授業時数計画の全体像のことです。文部科学省の学習指導要領を基に、地域や子どもの実態を考慮して、学校毎に毎年作成しています。学習指導要領とは、全国の学校で質の高い教育を保つため、文部科学省が定める教育課程の基準のことです。各教科の指導内容や授業時数が示されています。現在の学習指導要領では、子どもが育むべき力として、①生きて働く「知識及び技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、③学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を定義しています。

文字にすると難しく感じますが、将来、仕事をするとき、何が必要になるかを考えると、これらの意味がわかります。どんな仕事をするにしても、自分の意見を持ち、それを伝えること、他の人と意見が違えば協議することは、必要です。自分の意見を持つには、知識と思考力、判断力、人に伝えるには表現力が必要となります。人に指示されてするのはなく、主体的に仕事をするには、学びに向かう力は欠かせません。小学生の今、自分の将来の見通しを持つことができれば、意欲的に学べるのではないのでしょうか。

将来の夢ややりたいことがないということをよく耳にします。その場合は、先に学習習慣を身につけることをお勧めします。学べば学ぶほど、興味関心が広がったり深まったりしますので、将来の夢ややりたいことが見つかるからです。

■話さないと伝わらない

高学年になると、拳手して自分の意見を言う子どもが激減します。その理由は、正解思考、間違いや失敗への恐れ、仲間意識や同調圧力、そして、簡単過ぎる質問への心理的抵抗などでしょう。ベースにあるものは、他者の目です。ただ、自分が意見を持っているかどうかは、発話しない限り、他者にはわからないのです。このことは、正しく知っておく必要があります。一番良くないのは陰であれこれ言うことです。愚痴しか生まれず、生産性は皆無だからです。

実は、世界からは、日本人はあまり自分の意見を言わないので何を考えているのかわからない、と言われていました。話さないとわからないのは、大人も同じですね。世界標準では、自分の意見を正しく伝えることが求められます。

なお、学校における間違いや失敗は、本当の失敗ではありません。それは、チャレンジした証、と言う先生がいます。その通りですね。失敗を恐れて何も行動を起こさないことが、真の失敗です。学校で失敗を経験しないで社会に出てから失敗すると、心が折れてしまうかもしれません。そうならないためにも、今、チャレンジしてほしいと願います。

■ご家庭のご協力をお願いします

ご家庭のご協力をお願いしたいことがあります。一つは、ハンカチの持参です。毎朝、ハンカチをチェックしますが、「ハンカチ」を持って来ない子どもがいます。ハンカチには、衛生・清潔を保つ役割、身だしなみ・マナーの役割等があります。ご理解のうえ、ハンカチを持たせていただければと思います。もう一つは、おうちトレーニングの「おうちの人より」のコメントです。子どもたちは2週間の振り返りを書きますが、おうちの人よりのコメントが書かれていないことがあります。子どものがんばりや子どもへの励ましを文字で残していただけると、その思いが子どもに伝わりますし、子どもは振り返りもできます。お忙しいとは存じますが、子どものために、ご協力いただければと存じます。

